

市内循環バス(自主運行バス)について



岡村 勝

問 18年6月の議会全員協議会において、民間検討委員会の答申を受け、更に関連部署の幹部職員による検討委員会にて検討中という、市民部長からの説明を受けており、様子も波及を考えると、コミュニケーションバスの運行実施の期待は大きなものがあると思われる。現行のタクシー利用補助券制度は発行対象者を絞り込んだなかで福祉タクシーとしての形態は存続させ、併用制度を検討したら如何か

答 自主運行バスの目的は、公共交通の無い交通空白地域を補完するために行うもので、ある程度の制限があります。特に営業として路線バスが運行しているところは避けなくてはなりません。一方、静鉄ジャストラインが運営している路線バス

の動向ですが、朝比奈地区から児童輸送を主にやっている浜岡循環線は赤字補填をしながら運行をお願いしております。特急御前崎静岡線は、平成19年4月から相良営業所で打ち切りとなり、更に海洋センターまで来ていた藤枝相良線も打ち切りとなります。相良営業所以西は新設しなくてはなりません。この新設路線は国庫補助対象路線にはならず、単独維持困難路線として運行され、初年度から3千万円程度の赤字が見込まれますので、牧之原市と御前崎市で負担することになります。又、御前崎菊川線も市の補助が発生して参りました。これらの状況を総合的に判断し



・ 庶民大増税について ・ 病院問題について



清水 澄夫

問 住民の皆さんから「何でこんなに税金を上げ、我々を苦しめるんだ」と言う声を聞く。小泉内閣の5年間は庶民大増税による暮らしの破壊だった。高齢者に向けられた年金大増税に加え、今年半減された定率減税は、来年1月には所得税で全廃、6月には住民税で全廃となる。この影響は高齢者だけではなく、サラリーマン、自営業者を含め税金を払っているすべての国民に及ぶ。消費税も参議院選後の税率引き上げが言われている。今年1月から来年12月までに17項目にも及ぶ増税負担増が実施され住民にのしかかっている。市長は市民の暮らしに責任を持つ立場として心が痛まないか。自治体の長として何か手だてを考えているか

答 公的年金等控除の縮小などの税制改正は、世代間の公平を図る観点から、税金を負担できる能力に応じた負担を高齢者に求めるものとしたもので、標準的な年金以下の年金で暮らしている高齢者世帯は引き続き非課税としているし、同水準の給与収入を得ている現役の世代よりも低い税負担としているなど、憂慮する措置が講じられている。定率減税の廃止については、景気対策として導入された暫定的な税負担の軽減措置を元に戻すもので増税に当たるとは考えていません。余裕のある人は負担をしてもいい、お互い支えあっているような制度づくりに取り組むことが政治の責任であると思います。

問 病院問題は本当に深刻な状況だ。原因は医師不足だ。これは全国すべての自治体病院がこの問題

で悩んでいる。この様な中、医科大学も医学生を減らす方向にある。果して医師の確保ができるのか疑問だ。市長は常勤医師のいない、整形外科、耳鼻咽喉科、小児科の医師を浜医大から派遣していただく様今後也要請すると述べているが、その可能性はあるのか。又、医師が不在となった根本的な原因は何か。更に、医療の拠点化、集約化が言われているが、その話は具体化しているのか

答 医師不足の原因は、臨床研修医制度で、制度前の医学生は大学を卒業すると大学の医局に入局し、関連の病院に派遣されていた。制度が始まると大半の卒業生は大学を離れ、一般の病院で研修することになり、大学自体が医師不足となった。拠点化・集約化の話は今段階ではありません。

廃止が検討されている静鉄バス路線

問 病院問題は本当に深刻な状況だ。原因は医師不足だ。これは全国すべての自治体病院がこの問題

で悩んでいる。この様な中、医科大学も医学生を減らす方向にある。果して医師の確保ができるのか疑問だ。市長は常勤医師のいない、整形外科、耳鼻咽喉科、小児科の医師を浜医大から派遣していただく様今後也要請すると述べているが、その可能性はあるのか。又、医師が不在となった根本的な原因は何か。更に、医療の拠点化、集約化が言われているが、その話は具体化しているのか